

10 CROSS TALK



Akari Ogishima

荻島 愛理

ピアノ
国立音楽大学卒業



Asuka Doi

土居 あすか

管楽器／フルート
神戸大学卒業



Asami Tomioka

富岡 愛彩美

管楽器／トランペット
洗足学園音楽大学卒業



Asumi Yamaguchi

山口 亜純

弦楽器／ヴァイオリン
洗足学園音楽大学卒業



Tomomi Yoshida

吉田 智海

弦楽器／コントラバス
順天堂大学卒業

× TALK 「洗足の大学院に進んだ理由は？」

荻島 国立音楽大学の附属に小学校から通っていたので、違う環境や空気の中で学びたいという思いがありました。その中で、演奏会の回数が多く、出演できるチャンスも多いという特徴や、多彩なカリキュラムから好きなものを選ぶこと、レッスン室のスタインウェイを借りられるというところに魅力を感じて、洗足の大学院に進学を決めました。

土居 カリキュラムの豊富さが大きな理由です。授業や研究は勿論のこと、演奏会など実践の場が多く設けられていることも成長に繋がると感じました。また、大

学院でオーケストラができることも決め手のひとつでした。

富岡 洗足の大学で学んだ知識や技術に磨きをかけたくて、大学院への進学を決めました。第一線でご活躍の先生方からより集中的にご指導いただくことで、高度で専門的な技術が身につくと思いました。

山口 大学在学中は、大学院へ進む気持ちはありませんでした。ですが、卒業が近づくと、やはり自分はまだまだ学びたいと強く思うようになり、レッスンを沢山受けることができ、コンサートの機会も多くある大学院へ進むことにしました。

× TALK 「洗足の大学院の魅力や、選んで良かったこと、学んで成長したことは？」

荻島 進学の原因でもある演奏会の回数・出演チャンスの多さを体感し、大変勉強になりました。スタインウェイを弾く機会の多さもかなり勉強になり、2年間で大きく成長できたと感じています。多彩なカリキュラムは想像以上に有意義で、ピアノコースにいながらも他の分野と繋がりを持てる授業を受けることができたのは、様々なコースがある洗足ならではの感覚です。

土居 レッソンの制度が充実していることは本当に魅力的です。通常の個人・室内楽レッスンのほかに、様々な先生のレッスンを受けることができます。この2年間で多くの素晴らしい先生方にご指導いただいたことは、とても貴重で大切な糧となりました。

富岡 大学院では、講義で得た知識を自分なりに咀嚼する時間が増え、効率よく練習できるようになりました。1,000席を超える前田ホールをはじめ、充実した施設も多く、技術の高みを目指すうえで最良の環境だと感じています。

山口 大学では、目の前のことをこなすのに一生懸命で、毎日が目まぐるしく過ぎていきました。大学院に進み時間が増えたことで、改めて自分と向き合うとともに、じっくりと曲を研究、勉強することができています。また、特別レッスン講座が充実しており、色々な先生にレッスンをしていただくことで、さらなる知見を深めることができました。

吉田 多彩なカリキュラムや整った研究環境は勿論のこと、一番は私たち学生

× TALK 「将来の目標・夢は？」

荻島 今後は、主に高齢の方を癒やしたり元気にする活動をしていきたいと考えています。また、洗足の先生や学生の明るい雰囲気や、楽しく音楽を表現している様子を感じたことで、今まで以上に音楽の楽しさを伝えていきたいと思うようになりました。歌詞のない器楽曲の魅力も少しでも届けていければと思っています。

土居 目の前の目標をひとつひとつ達成しながら、自分の理想とする音楽との関わり方ができるように努力を重ねていきたいです。

富岡 演奏家として、多くの人たちに心安らぐ音楽を提供していきたいと思っています。

山口 死ぬまでずっと楽器と一緒に勉強していきたいです。

吉田 私をここまで導いてくださった、多くの先生方のように、演奏家、指導者として、音楽を「一生の友」としていつまでも愛し、尊敬していきたいです。そのうえで、音楽の魅力を社会や次の世代へと紡ぎ、橋渡しができる人になっていきたいです。

特別企画

大学院生×クロストーク

洗足を選んだ理由や入学して経験したことなど、
洗足の特徴や魅力について、大学院生10名のリアルな声を紹介します。



Mami Ishikawa

石川 まみ

打楽器
洗足学園音楽大学卒業



Kazuya Takahashi

高橋 和哉

電子オルガン
国立音楽大学卒業



Mei Hara

原 芽衣

声楽/ソプラノ
洗足学園音楽大学卒業



Ho Kamigama

神山 恒

声楽/テノール
上野学園大学卒業



Liu Jin

劉 金

音楽・音響デザイン
中国伝媒大学卒業

吉田 大好きだった音楽を改めて勉強、研究したいと思ったからです。洗足を選んだのは、中学・高校時代、お世話になった恩師の先生方が全員、洗足の卒業生でした。その先生方の後輩になりたいという憧れが強かったことに加えて、洗足の先生方は温かく、パワフルで、人としての魅力にも大きく魅かれました。

石川 大学生の時には、合奏系授業や打楽器コースの本番が多くあり、団体での演奏の学びを沢山得ることができました。大学院に入り、マリimbaのソリストとしての演奏や、大学の時に履修していたゼミの活動（保育園・幼稚園など外部での演奏活動）の幅を広げていきたいと思い、大学院に入りました。

高橋 アンサンブル演奏を深く学びたかったからです。中でも、電子オルガン、

の自主的な研究生活を第一に考えてくれていることだと思います。そのため学生はそれぞれの歩幅に合った成長ができます。また、演奏の機会にも恵まれており、他コースと交流する機会も多くあり、様々な分野の領域横断性が高く、常に刺激に溢れていました。その中で経験できた質の高い演奏会は、何ものにも代えがたい貴重なものとなりました。

石川 一番の魅力は、ダブルレッスンがあり2人の先生からレッスンを受けられることです。そのため、大学の時よりもソリストとしての学びが多く自分自身の表現の幅が広がったと思います。また、プロフェッショナル特殊研究講座として、様々な方向から自分の学びたい分野の授業を自由に選択できることも魅力のひとつです。他コースの授業を自由に聴講したり、海外の演奏家によるマスタークラスを受けられることで一流の打楽器の音楽観や、音色を肌で感じることができます。

石川 現在、保育園・幼稚園での演奏活動や、ソリストとしての幅を少しずつ広げていくことができています。入学前よりも自分の目指したい道や方向性も明確になったことで、修了後は小さな子どもたちや、地域の方々へ向けて生の音楽に触れられる機会を増やしていきたいように、またソリストとしての幅をもっと広げられるように演奏活動をしていきたいです。

高橋 YouTube(和哉の部屋)を始めたSNSでの演奏動画投稿などを通して、電子オルガンの魅力を世界に発信していきます。最終的には、電子オルガンで生計を立てられる、電子オルガン界のビジネスモデルを生み出します。

弦楽合奏、打楽器からなるハイブリッド・オーケストラに興味がありました。

原 大学よりも専門的に研究ができ、オペラの授業も時間数が多く手厚く見ていただけるということに心惹かれて大学院への進学を決めました。

神山 オペラと歌曲の両方を学べること、他コースや学部も受けることができる点に魅力を感じて洗足の大学院を選びました。

劉 洗足に入学する前の半年間は東京藝術大学の研究生でしたが、サウンドクリエイターを目指す自分には洗足の方がふさわしいと思い入学を決めました。自分の好きな先生に師事でき、カリキュラムもとても充実しています。

高橋 演奏会がとても多い点です。アーティストとしての演奏力、アンサンブル演奏での聴く耳を鍛えられました。また、コース・年代の枠を超えた学友会「大人会」での活動を通し、卒業後もともに演奏をしていける仲間に出会えました。

原 大学よりも人数が少ないため一人ひとりにかけてもらえる時間が多いです。

神山 多くの先生方から、様々なアドバイスをいただけることや、親身なご指導をいただけることが大きな魅力です。また洗足の学食、特に500円で食べられるシェフの気まぐれランチはとても美味しいです。

劉 「音楽を究める」というより「自身の音楽と向き合う」方法を教えてくれる場所だと思います。設備がすごく充実していて、有名な先生も多く、積極的に学ぶ姿勢があれば大きく成長できるところが最大の魅力です。

原 オペラは勿論ですがクラシックに限らず様々な分野の音楽に関わることをしていきたいと考えております。

神山 自分の目標に向けて一歩ずつ前進できるよう日々精進するとともに、将来は指導者として子どもたちに音楽の楽しさを伝えていきたいと思っています。

劉 小さい頃から日本のゲームが好きで、将来はゲームの分野で活躍したいと思っています。そのため、今は色々なことを学び、経験を積んでいます。